



幻冬舎文庫
 著者：会田誠
 解説：齊藤環
 600円＋税
 表紙は会田による《滝の絵》

カリコリせんとかや生まれけむ

2012年11月から今年の3月末まで、とある現代芸術家の個展が東京で開かれた。展示されたのは、戦争画や、小学生の頃課題で描かされたポスターをモチーフにした風刺画、裸やスクール水着で駆けまわる美少女たち、などなど。作家の名は会田誠。今や日本を代表する現代芸術家の一人とも言われている。今回紹介するのは、そんな芸術家が一般向けに書いたエッセイをまとめた、『カリコリせんとかや生まれけむ』である。

きっと多くの人にとって、日常生活であまり縁のないであろう芸術家という人たちがどんなことを考えて生きているのか、気になるところだ。しかし内容は、中学生の時に描きたいやらしい絵をどこに隠したかとか、シャンプーを使わないから頭が痒いので日常的に奥さんに掻いてもらっているとか……。大半が彼の日常の、はっきり言ってくれないエピソードである。

しかし、読み始めると止まらない面白さがある。まず「プロのエッセイストじゃないのか」と疑うほど文章の切れ味がよく、なんとも味わい深い。タイトルも『梁塵秘抄』の有名な一節のひねりであるし、随所に知的さが漂っている。しかもくだらないエピソードは、きちんと彼の本業の現代美術の話題と結びつけられながら語られる。

現代芸術家は自分の作品についてあまり語らないイメージがあるが、彼は自作がどういった経緯で生まれたのか、あっけらかんと語ってしまう。エッセイから、「なんかよくわかんない」と思われがちな現代アートの世界で日々奮闘する人間味のある芸術家の姿が浮かび上がってくる。

そんなこんなで、読めば読むほど深みが出てくるエッセイである。現代アートに興味のある人、疑問のある人、そのどちらでもない人。全ての人に、まずはくだらなくて面白い上質なエッセイとして手に取ってもらいたい。

(椿井)

はみだし
すてーじ

----- (キリトリ) -----
 ⇒オフバリュー券1,000円分 (レジで1,000円チャージできます。)

(エ・3 マクロファージ)
 (嘘ですよ；編)